

東北水産研究レター No.31 (2014. 3)

エゾアワビ資源の回復に向けて －種苗生産技術の高度化と深所アワビの生態解明－

エゾアワビは三陸沿岸の重要な磯根資源の1つですが、東北地方太平洋沖地震で発生した大津波によって、大型貝だけでなく、成長して漁獲されるはずだった稚貝も流されました。また、種苗生産施設の被災により、本種の資源量を下支えていた稚貝の放流が困難な状況が続いており、2014～15年以降の漁獲への影響が懸念されています。東北区水産研究所では岩手県水産技術センターなどと連携して、種苗生産技術と資源増殖技術の高度化に取り組んでいます。

種苗生産技術の開発では、成長と生残が不安定な初期稚貝（殻長0.8mm以下）の飼育技術の高度化を目標としています。これまでの研究で、構造的に脆い針型の細胞殻を持つ珪藻 *Cylindrotheca closterium*（写真1）が、初期稚貝にとって消化効率が高い好適な餌であることが分かっています。さらに、本種は増殖速度が早いため、生産工程における時間短縮によるコストの削減にも貢献すると考えられます。今後は、本種を用いた種苗生産工程を確立し、各地の種苗生産施設への導入を目指しています。



写真1 珪藻 *Cylindrotheca closterium* の顕微鏡写真
(珪藻：単細胞性の微細な藻類の一種で、細胞が珪酸質の殻に覆われているのが特徴)

資源増殖技術の開発では、津波がエゾアワビ資源に与えた影響を明らかにするだけでなく、深所（水深10～20メートル）に生息するアワビの有効利用の検討も始めています。三陸沿岸では、主に水深10メートル付近までに分布しているアワビを船の上から鉤を使って漁獲しています。しかし潜水調査から、水深20メートル付近までアワビが分布していること、すなわち未利用資源が存在する可能性があることが分かってきました（写真2）。深所は浅所よりも餌である海藻が少ないため、成長や繁殖には不適だと考えられます。そのため、深所のアワビを浅所に移植することによって、肥満度と繁殖力を上げることができると考えられます。



写真2 海藻が繁茂した水深が浅い場所（写真左）と海藻が繁茂していない深い場所に生息するエゾアワビ（写真右）

今後は、アワビの移動と繁殖生態の面から浅所と深所のアワビが交流のない集団なのかを明らかにして、移植が妥当なのかを検討していきます。

(沿岸漁業資源研究センター浅海生態系グループ
任期付研究員 松本 有記雄)



松本 有記雄 任期付研究員

コンテンツ

- ① エゾアワビ資源の回復に向けて－種苗生産技術の高度化と深所アワビの生態解明－
- ② 仙台湾の植物プランクトン群集の季節変動－東日本大震災が基礎生産者に与えた影響の解明に向けて－